

令和 2 年 2 月 25 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 :	大阪市立泉尾工業高等学校	校印
校 園 長 名 :	新宅 博生	
電 話 :	06-6552-2221	F A X : 06-6554-7612
事務職員名 :	山口 修一	
申請者 校 園 名 :	大阪市立泉尾工業高等学校	
職 名 ・ 名 前 :	首席 ・ 井上 泰治	
電 話 :	06-6552-2221	F A X : 06-6554-7612

研究コース	
グループ研究 A	
選定番号	155
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)	
583522	

平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇平成31年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究 A	研究年数	新規研究 (1 年目)
2	研究テーマ	多様性を尊重した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて ～真のダイバーシティ社会へのトランジションの研究			
3	研究目的	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な生徒に対するの多面的観点別評価の研究から指導と評価の一体化を進める ○職業観の育成と進路指導の充実、教育成果の積極的な情報発信を進める ○多様な生徒へのICTを活用した情報教育・プログラミング教育のより効果的な指導方法の開発 ○望ましい集団活動を行う態度(共生・協働の意識)の育成を意識した指導法の工夫 ○安全で安心できる学校、教育環境の実現(サポートルーム、教室の整備と充実) 			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な生徒に対するの多面的観点別評価の研究から指導と評価の一体化を進める スクール・ネットワークの観点を取り入れた指導に向けての研究 【教員研修および実践に向けての取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> ・大阪府立大学「学校コラボレーション」6講座参加(なんばI-site) 5月17日「地域共生社会におけるスクール・ネットワーク」他 6月14日, 7月12日, 7月26日, 8月23日, 9月13日 ・大阪府立大学「スクール・ネットワーク実践セミナー」5講座参加(なんばI-site) 10月11日「プログラム評価におけるスクール・ネットワーク」他 10月25日, 11月8日, 11月22日, 1月17日 【校内および地域資源の活用と生徒支援のシステムの構築実践】 <ul style="list-style-type: none"> ・10月～毎週金曜日2・3時間目 コア会議(SSW, コーディネーター, 首席の打合せ及び研修) ・校内研修会10月10日, 1月23日, 2月4日(発達障害、スクール・ネットワークについて) ・生徒支援校内ケース会議12月13日, 2月14日(アセスメント・プランニング・モニタリング) ・生徒支援拡大チーム会議(参加:大正区福祉SSW, コネクションズ おおさか)1月21日 ○職業観の育成と進路指導の充実のための動向調査 <ul style="list-style-type: none"> ・「学校と社会をつなぐ調査 分析結果報告会」参加 11月23日(東京都AP日本橋) ○多様な生徒へのICTを活用した情報教育に向けた教員研修 <ul style="list-style-type: none"> ・「IT機器の活用と管理、研修セミナー」参加 10月25日(CIVI研修センター新大阪) ○望ましい集団活動を行う態度の育成に向けての研修 <ul style="list-style-type: none"> ・「心理療法力カギセラ養成講座」参加 9月15日(新大阪アリス会議室) ・立教大学「BLP授業参観(見学会)」参加 1月11日(立教大学) ○安全で安心できる学校、教育環境の実現に向けて <ul style="list-style-type: none"> ・サポートルームの整備(カーテン, パーテーション, フロアマット, プリンター等) 			

5	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>○多面的観点別評価の研究、個々の生徒に合った指導の実現により学力の向上 生活習慣、学習活動、自己理解、他者理解の観点別のクワールブックを示し、生徒・保護者とともに年度目標を設定した。個々の生徒が個々の目標を意識しながら様々な活動に取り組んだ。 【結果】各観点についてアンケート調査(5段階評価)による効果測定を行い、各観点のポイントは向上した。特に他者理解の項目は「周りで困っている人がいれば手助けできる」「周りの人の言動に耳を傾け意見を取り入れる」ではそれぞれ0.6ポイント向上した。</p> <p>○自己理解を深めより具体的な職業観を育成する取り組み。 各行事や長期休業期間前後に振り返りをさせ、学校生活の反省や目標設定を定期的に行った。3月には保護者懇談を生徒のプレゼンテーション形式で進路目標の発表を実施する予定である。 【結果】保護者への満足度調査はまだできていないが、生徒のアンケート調査(5段階評価)では「今後の高校生活の過ごし方は描けているか」は1年間で0.8ポイント向上したが、「将来就きたい職業は明確になっているか」は0.2ポイント低下した。これは働くことへの意識と今必要なことは理解しているが、具体的な職業にまで意識が進んでいないのではないかと思われる。</p> <p>○ICTや対話を使った指導方法の研究 教員による一方向的な講義形式ではなく、ジグソー法やグループでの対話を取り入れたICTを活用したプレゼンテーションを実施。アンケート調査(5段階評価)による効果測定を行った。 【結果】「取り組みについて興味を持った」では1.0ポイント向上し、「取り組みについて積極的に取り組めた」では1.1ポイントの向上が見られた。</p> <p>○アクティブ・ラーニング 授業展開の手法の研究実践 ポスター制作などの手法を取り入れ、様々な機会を発表を行うなど、学習の内化および外化を意識した取り組みを行った。アンケート調査による効果測定を行った。 【結果】「論理的思考力」では5段階評価で0.5ポイント向上した。特に「人前で自分の意見を話す」ことについて「好き」「得意」との回答はそれぞれ0.5ポイントの向上が見られた。また、「伝えたい」も0.4ポイント向上した。学習への取り組みについて意欲的、主体的になっている。</p> <p>○すべての生徒に合った指導計画を作成するとともに、全教職員で情報の共有を図る。 校内システムとして「気づきシート」の導入に取り組んだ。校務支援PCを活用しながらSSWの視点を取り入れた困り感のある生徒の情報収集と共有ができる仕組みの構築を進めた。 【結果】今研究は生徒及び家庭への働きかけまで到達していないため、教員アンケート調査を実施した。職員研修会後のアンケート調査(5段階評価)「SSWの視点の必要性」では「とても思う」「思う」との回答が79%であった。</p>										
		<p>《まとめ》 本研究の目的は、多様な課題を持った生徒の情報を教員間で共有し、インター・アセスメント・プランニング・モタリングにつながる校内システムの構築である。そして生徒がより安全で安心できる学ぶ場としての学校づくりを目指したものである。そのために、教員は幅広い視野を持ち、他の多くの教員や外部資源と協働しながらチームとして生徒指導や学習環境の改善にあたることを求められている。本研究のさまざまな取り組みにより生徒は自己理解、他者理解を深め、社会の一員であることの自覚を持ち将来の目標に向かって自立しつつある。また、教員にも福祉やスクールソーシャルワークの視点の必要性、考え方について興味や理解が深まり、資質能力、指導力、チーム力の向上につながっている。</p>										
		<p>《課題》 本研究の取り組みは、まだ小さなグループへのアプローチであったが、各教科・科目の特性に合わせた指導法や各クラスを考慮した検証を進め全校的な取り組みへ発展させていく必要がある。また、生徒の様々な情報を教員間で共有する取り組みは「気づきシート」として導入したが、全生徒に対するスクリーニングには至っていない。本校の特徴に合ったより効率的で確実な「気づきシート」の作成も他校事例を参考にしながら進める必要がある。更に共有した情報をもとに生徒へのアプローチと外部資源の活用のための学校プラットフォームの構築および校内の人材育成を進めていく必要がある。</p>										
		<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p>										
		日程	2	年	2	月	4	日	参加者数	約	40	名
		場所	大阪市立泉尾工業高等学校 多目的室									
		備考										
6	研究発表等の日程・場所・参加者数											